

蓋聞二儀有像。顯覆載以含生。四時無形。
蓋し聞く二儀は像有り、覆載に顕われて以て生を含む。四時には形無く、
聞くところによれば、この世の根本原理である陰陽の二儀は、様々な事象として現れている。それ故、天地自然の万物は、生成
生滅といった現象を繰り返しているのである。ところで、四季の移り変わりには、明らかな形跡が見て取れない。それ故、時間
の経過による変化に、私達はなかなか気づくことがない。しかし、この世の事象は確実に変化している。

※昇試随意参考（半紙・条幅）としてご活用下さい。抜粋可。

一字書（三月二十二日締切）

課題

繁

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
一字と記入 段級は無記入

今月は昇試課題発表月ですが
「一字書」は出品出来ます。
推薦取得者始め多くの会員の
チャレンジを期待しています。

A
高橋香樹会長書

雪花被岸中流黒 雲氣涵山衆壑虚 (張公葉)
雪花岸を被^{おお}い中流黒く、雲氣山を涵^{ひた}し衆壑虚^{しゅうがくむな}し。



B

鈴木静村先生書

今回は昇級試験の課題ということで、行草単体の作とした。草書は、「花・中・流・氣・涵・虚」の六字。「雪」は古典にはこの形も多い。単体ではあるが、意連・字形・次字との関係により、行の出入り、流れを演出。また、線の強弱を有効に使い単調にならないようにしたい。墨継ぎは「流」と「山」。



中国湖州の善璉湖の筆廠で購入した兼毫特号を使用。潤渾、大小、太細を導入し暴れ楽しむのも「力」の発動。この平易・平凡な物足りなさをぜひ打開してほしい。流 墨継ぎ、雲 三画目に点を重ねた形。氣 米 この形多い。涵山 線上すべり。喰い込みを。衆 墨継ぎ。

訳：雪は川の兩岸をおおって、川の中ほとばかりが暗く、雲は山を埋めて多くの谷は空虚である。

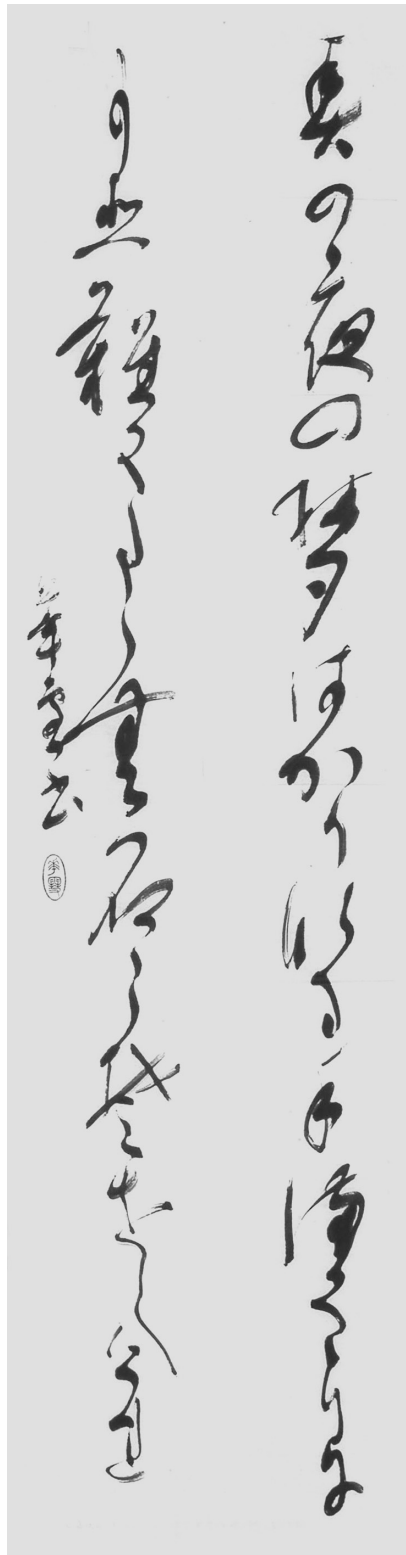
予告 (四月二十二日締切) 岸引緑蕪春雨細 汀連斑竹晚風多 (釈齊己)

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

A

平岡華雪先生書

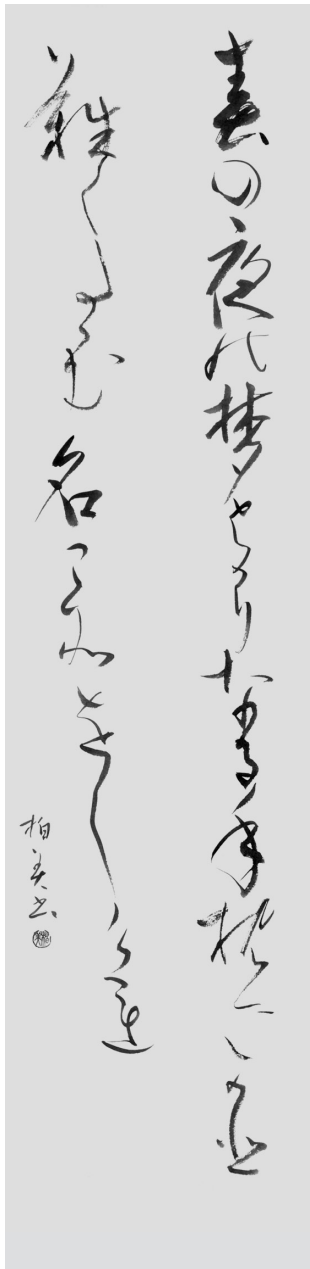
春の夜の夢ばかりなる手枕たまごにかひなく立たむ名こそ惜しけれ(百人一首 周防内侍)
 春の夜の夢はかり那る手満まくら久良くら可か悲ひ難な久多くた、無名むなこそ楚そをし介連れ



B

石島柏美先生書

春の夜能の夢者の可かりなる手枕たまご二可に悲か難ひ久多くた、む名なこそ所そをし介連れ



学び方

華雪先生の作品は、漢字・仮名を調和よく取り入れて、リズム感のある美しい連綿で書かれています。今回は春の月が美しい夜、何となく優雅な気分を誘う「恋の歌」を二行書きにまとめました。二行目は字数が多いので字間を詰め気味に、二行目はゆったりと伸びやかに書きます。この歌の強調したい字句、例えば「春の夜」「夢」「手枕」「名」はゆっくりと丁寧に書き、連綿の部分は少し早めにリズムミカルに書くこと。墨の濃淡の変化もつけながら二行の流れの響き合いを大事にして書いて下さい。

これまで作品を書く上で必要なことを自分なりに述べてきましたが、練度を高めるには古典を学ぶことが大切です。自分で何か一つ古筆を選び、臨書することです。何度も書いて古筆の連綿のリズム感を会得すれば、創作する上で大いに役立つことと思います。

予告 (四月二十二日締切)

うすべにに葉はいちはやく萌えいでて咲かむとすなり山桜花 (若山牧水)

周防内侍
 平安期の女流歌人。父が周防守であったため宮中に典侍として仕え、周防内侍と呼ばれた。出典は「千載和歌集」だが、百人一首にもある。歌意は「短い春の夜の夢のような戯れごとに、あなたの手枕をかりたばかりに、何のかわいもなく浮き名が立ってしまうことが残念です」。「夢」「手枕」などの恋情を誘う語を読み込んで優艶な風情をただよわせている。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

梅林寺爽葉先生書

渚宮何處是(孟浩然)
渚宮しよきやう 何れの處いすか是なるこゝろ

渚宮何處是
渚宮何處是
渚宮何處是

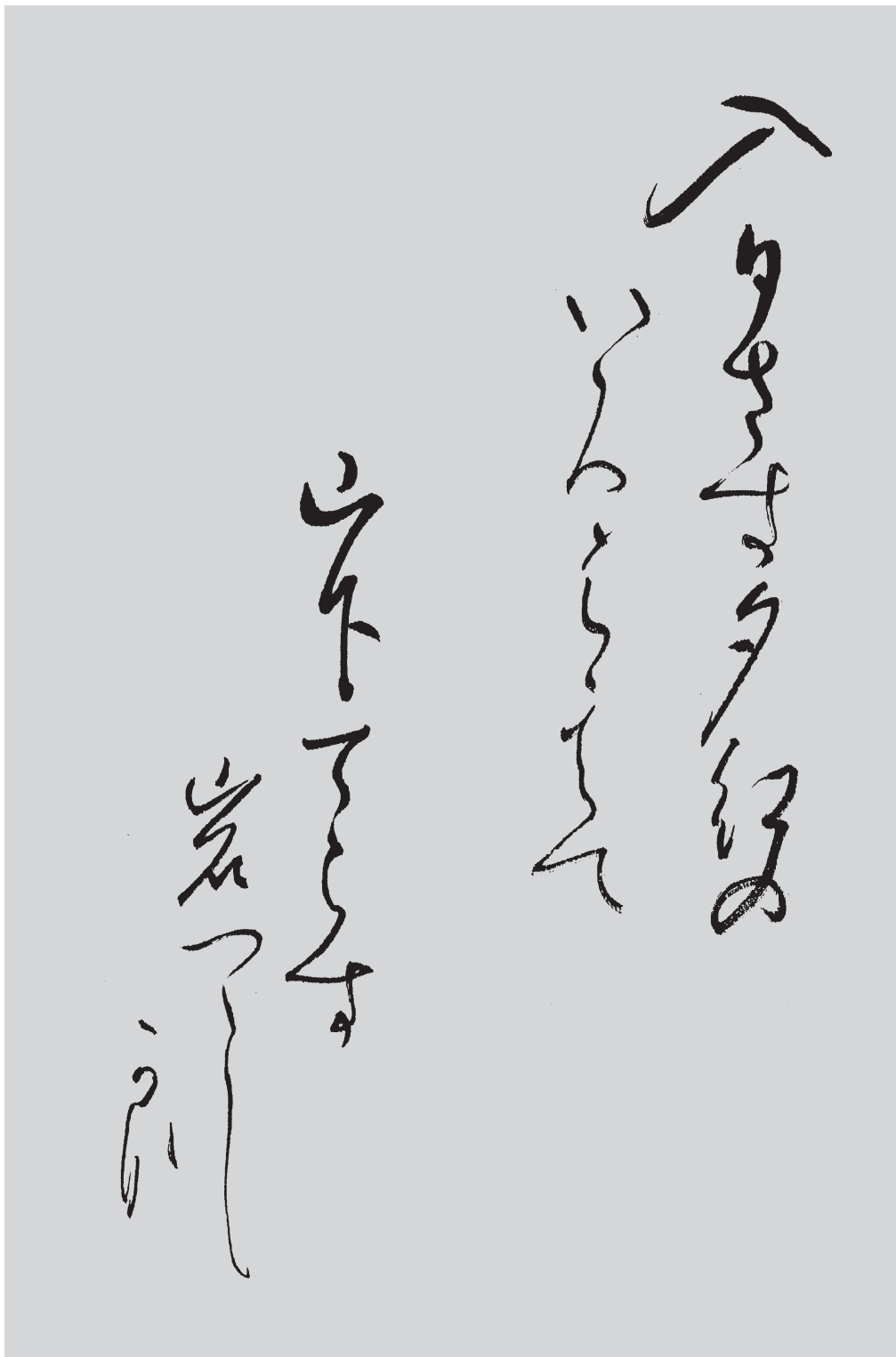
爽葉書

訳：渚宮とは、どのあたりがそれなのか。

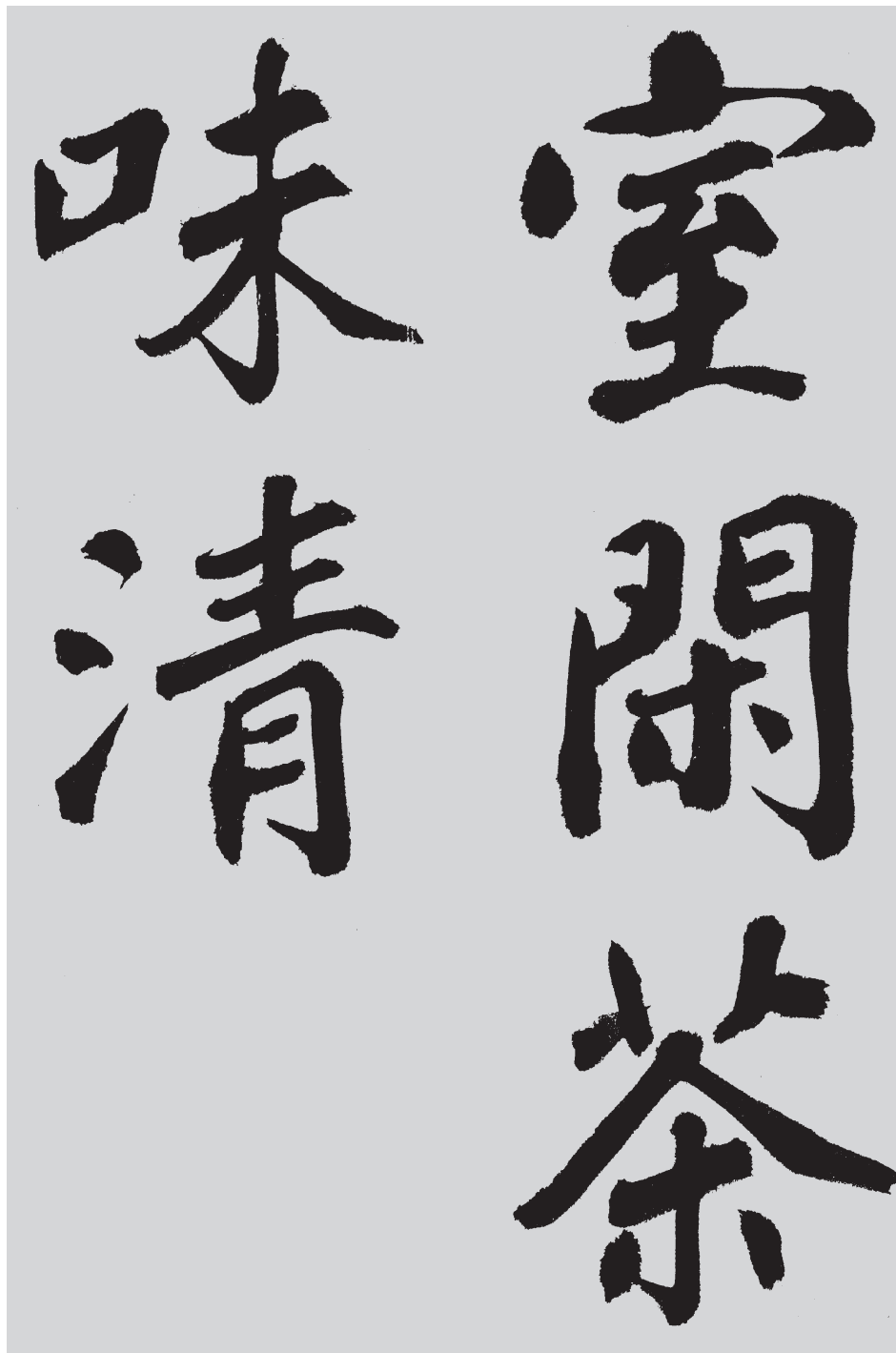
◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

高塚竹堂先生書

入日さす夕紅ゆふぐれなるのいろはえて山下てらす岩いはつゝじかな (金葉和歌集)



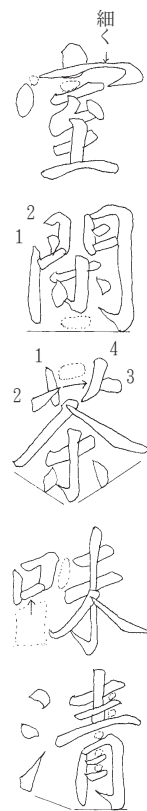
◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。



平岡華雪先生書

室閑に茶味清し。(周天度)

訳：静かな部屋に茶の香が清らかにただよう。



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

平岡華雪先生書

月いづく空はかすみの光かな (肖柏)

月いつく空はかすみの光かな

月いづく
空は
かすみの光かな

〈「意連」の大切さ〉

連綿線で続けないで、気持ちで連綿する方法。「月」の末画から「い」の第一画への意連、「空」の末画から「は」の第一画への気持ちのつながりが大切です。これには練習を重ね、リズム・間合いを覚え込むことです。先生方の筆づかいを見ながら多習することが第一。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

加藤 洞 雪 先 生 書

芳草客尋行藥地 輕陰人住養花天 (杭世駿)
芳草客は尋ぬ行藥の地 輕陰人は住す養花の天

芳 草 客 尋 行 藥 地
輕 陰 人 住 養 花 天

洞 雪 書

訳：芳草の生ずる処に客は運動のため散歩し、花曇りの天気には花をそだてて住している。

林 子 麻 先 生 書

鳥の音ものどけき山の朝明けに霞の色は春めきにけり(玉葉和歌集 京極為兼)
と利の音毛能東介幾山乃朝明け二可す見の色八春め支二希里

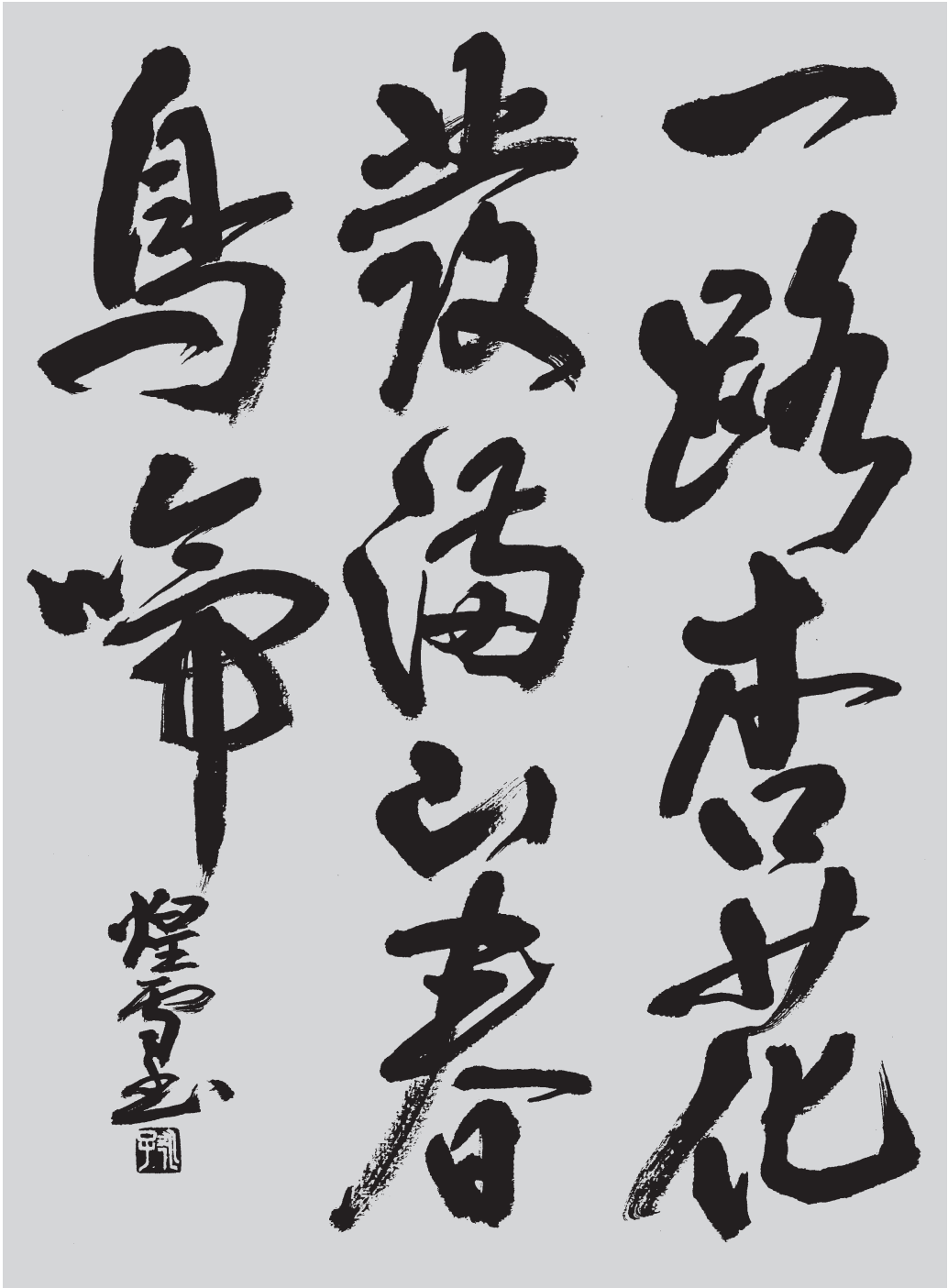
とりの音ものどけき山の朝明けに霞の色は春めきにけり
朝明けに可す見の色八春め支二希里

子麻書

◆注 意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

星野焯雪先生書

一路杏花發。満山春鳥啼。(錢維城)
一路杏花発いっろきょうかひら、満山春鳥啼まんざんしゅんちゆうな。

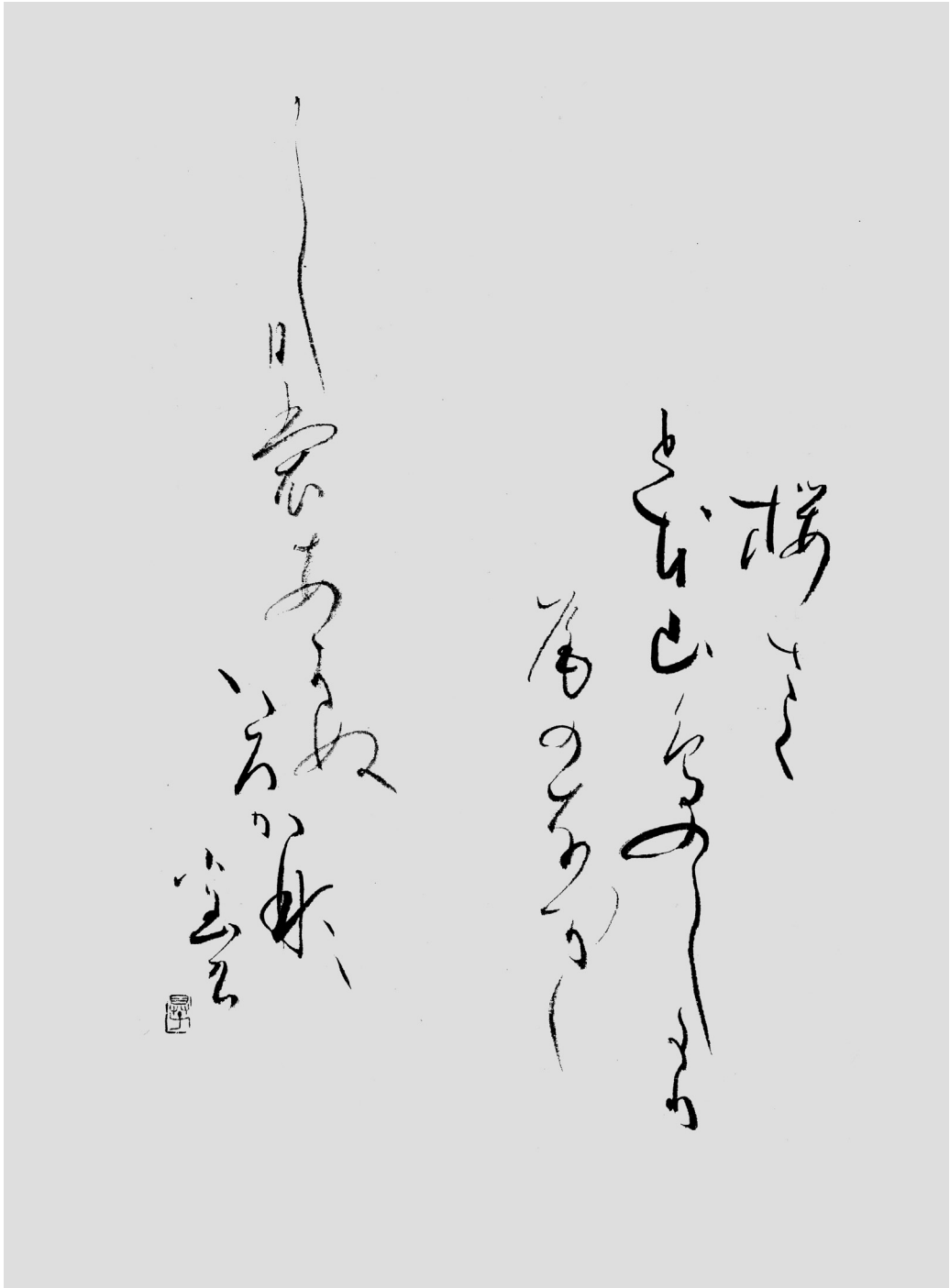


訳：過ぎし路のべに杏花は美しく咲き、山中到るところに春の鳥がよい声で鳴いている。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

高山小玉先生書

桜さくとは山鳥のしだりをながくし日もあかね色かな（新古今和歌集 太上天皇）
桜さ久と本山鳥のし多利尾の奈可くし日裳あ可ぬいろかな



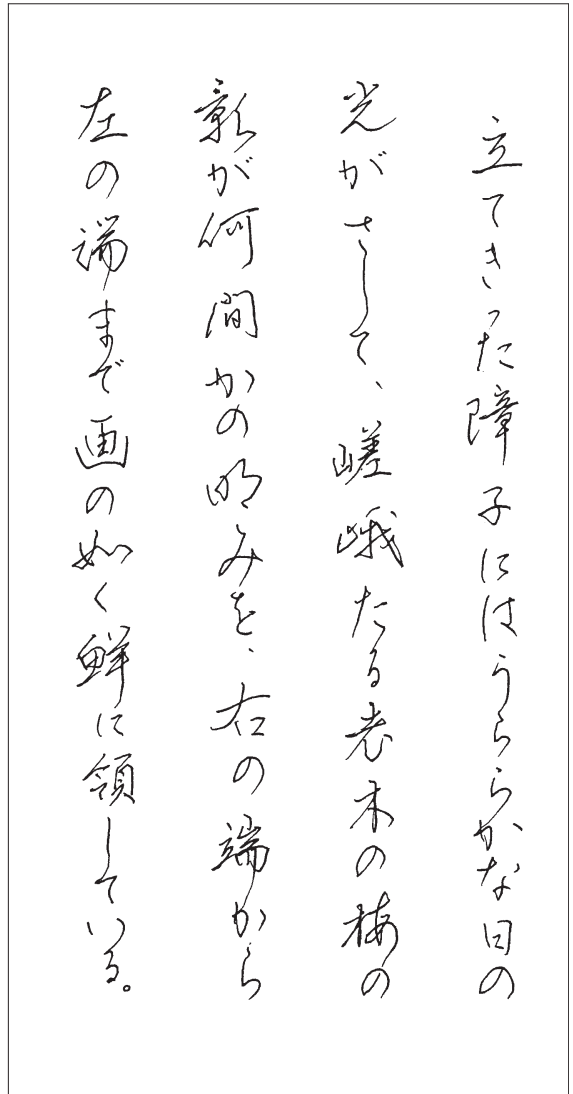
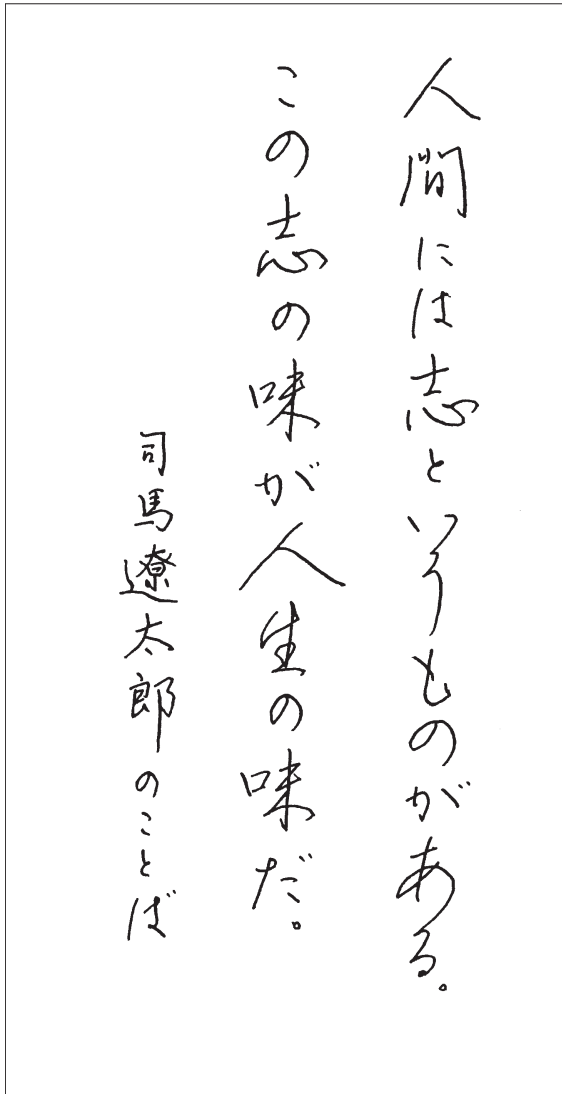
◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

湯澤春翠先生書

川上香蓉先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

立てきった障子にはうららかな日の光がさして、嵯峨たる老木の梅の影が何間かの明みを、右の端から左の端まで画の如く鮮に領している。

「或日の大石内蔵之助」芥川龍之介

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題2 (初段階以下)

人間には志というものがある。この志の味が人生の味だ。

司馬遼太郎のことば